

# ハロー フレンズ

ファイセック

発行

# FICEC

 ふじみの国際交流センター  
 Fujimino International Cultural Exchange Center

 2012年 **12**月号(隔月刊) 第123号

## 富士見市 国際交流フォーラム開催

**場所：ふじみ野交流センター 日時：11月11日(日) 12時～16時**
**主催：富士見市・富士見市教育委員会・富士見市国際友好協会**

### ★わが子を語る登壇者に、思わず涙

感動しました、近沢エルザさん。いつもセンターでニコニコとハグしてくださるあなたには苦労なんて何にもなかったようでしたのに！ポルトガル語が母国語のあなたが、私以上に流暢な日本語で語ったあなたの人生の一片、家族を思う優しさにあふれた言葉で吐露して下さった心情、それもご自分の飾らない言葉での語り口、本当に素敵でした。

こんな感動を与えてくれた「国際交流フォーラム」には、毎年ふじみの国際交流センターからも多くの登壇者を紹介してきました。シェイクさん、サイマさん、いつもセンターのお手伝いをさせていただきありがとうございます。生きることの苦しみも喜びも共有してこそ私たちの友人、富士見市市民。あなたたちのお話が私たちの持つ外国籍の人という壁を見事に取り払って下さいました。

「在日外国人の主張」は、日ごろ情報難民といわれる外国籍市民の現実を見事に掘り起こして下さいました。

### ★文字から体験できる異文化の香り

「お願いします。わたしのなまえは・・・」ネパール語とウルドゥー語で書いてくれた自分の名まえ、どこから見ても、それが文字だ

とはわかりません。外国語と言えばアルファベットとしか馴染みのない文字に、依頼した日本人も半分疑いの目です。「えっ、これって右から読むんですか」また驚愕の声、異文化に触れた一瞬です。そして国旗カルタで遊ぶ小さな子ども。国旗の特徴をだれにも分りやすい言葉で読み上げるセンタースタッフの説明に、もう分かっているのに手をつけず、子どもが取るのをにこにここと笑いながら待つ両親、そこには昔から連綿と続いてきた血の通った家族の心が見受けられました。集めた国旗のデザインがその子の将来にいかほどの財産を積み上げるのでしょうか。たかが国旗とは言えない大きな思い出、知識となって20年後、30年後の日本の財産として帰ってくることは間違いないと信じています。

(記・岩田 仁)



## 在日外国人の主張

12時から14時までの体験コーナーに続いて、「在日外国人の主張」が行われました。富士見日本語サークルのせきれいさんの他に、ふじみの国際交流センターから近沢エルザさん、シェイク・サイマさん、山川ロセリンさんがパネラーとして登壇しました。3人のスピーチとそれを聞いた私達の感想を紹介します。

### 近沢エルザさん

**(ブラジル出身 在日年数21年)**

「みなさんこんにちは！ふじみの国際交流センターでポルトガル語の通訳をやっています。私はブラジル生まれの2世です。」で始まった近沢さんのスピーチ。流ちょうな日本語で日本に来たころの感想を話されました。夕方5時に流れる市役所からの音楽で、ブラジルに残してきた3人の子どもの想いを泣いたこと。電車の音やカラスの鳴き声に驚いたこと。家に入るとき靴を脱ぐこと、お風呂屋さん、コンビニ、和式のトイレ、洋式のトイレなど私たちにとって普通のことや来日して間もない外国人にはとても興味深い事だったようです。

日本人の印象は親切、まじめ、ルールを守ること、姿勢がよくてみんなきちんとしていてかっこいいとも話されていました。また、今回自分が発表できることをとても誇りに思っている様子がうかがえて私たちまでうれしくなりました。

### シェイク・サイマさん

**(パキスタン出身、在日年数8か月)**

シェイクさんは来日直後、仕事を探す為にセンターに来た人です。英語が話せても、日本語ができないと仕事が見つからない事を知り毎日センターに日本語の勉強に来ていました。その学習ぶりは周りの誰もが驚くほどの熱心さで、この日のスピーチも来日8か月とはとても思えないものでした。サイマさんは「日本は社会のシステムや警察の組織や交通

ルールがとても良い。」と話してくれました。日本人が動物を可愛がっていること、家が狭くて物価が高いことに驚いたようです。締めくくりに「センターのスタッフが皆、親切でよく日本語を教えてくれたので、今日こうして発表することができた。とても感謝している。」と話してくれ、地道に活動している事に私達は改めて誇りと自信を感じました。

### 山川 ロセリンさん

**(フィリピン出身 在日年数22年)**

ロセリンさんはFICEC前身の大井日本語教室の頃から関わりのある人です。FICEC創立直後も国際交流講座のパネラーとして小中学校を廻ってフィリピンの文化や風習を伝えてくれました。日本人と結婚して日本で生活していく中で、子供達に苦勞をかけてはいけないと

考えて、積極的に日本の習慣を日常生活に取り入れたり、PTAの役員を引き受けたりしました。この日は「大勢の前で話をして頭が真っ白になってしまった。」と照れつつも、PTAの役員を引き受けて日本人の母親たちと一緒に活動したことや、自分から進んで日本人の話の輪の中に入っていることなどを話してくれました。

また、初めて義理のお母さんとフィリピンに行ったとき、自分の母親とは言葉は通じなかったけれど、「心と心が通じ合った」と感じたことを感慨深く話されました。国際結婚した外国人の多くがお姑さんとの関係でぎくしゃくしている中で、ロセリンさんの家庭がうまくいっている理由を垣間見た気がしました。

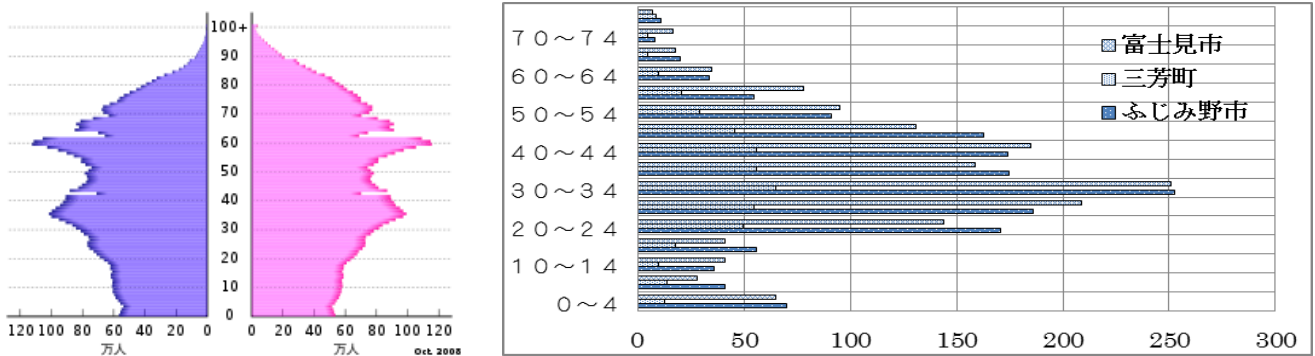
近沢さん、シェイクさん、山川さん、すてきな発表をありがとうございました。



## 2市1町の外国人調査 様々な面から見た外国籍市民の状況

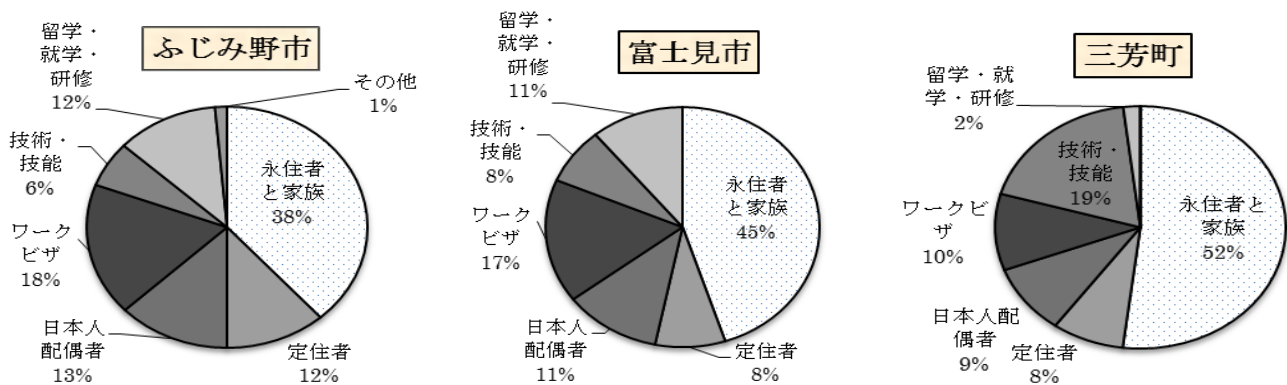
ふじみの国際交流センターを開設して15年が過ぎ、日本の社会環境も外国事情も変わってきました。本当の意味での外国人支援が何なのかを改めて考えようと、データを基にして2市1町の外国事情を分析してみました。

### ■年齢別に見た外国人



何歳の外国人が2市1町に住んでいるかを表したのが右のグラフです。単位も図形も違うので判りにくいかもしれませんが、左側の日本人の人口ピラミッドと比べてみるとだいぶ形が違います。右側の棒グラフで見てみると2市1町には20歳代から50代の若い外国人が多くいるのがわかります。

### ■在留資格別に見た外国人



これが在留資格別に見た2市1町の外国人です。三芳町にはITや外国料理の調理師・铸造・加工職人などの技術技能者や留学生・研修生がたくさん住んでいることがわかります。ふじみ野市と富士見市には通訳や語学学校の教師・中古車販売の経営者等ワークビザで来た人がたくさんいます。3市町の中でふじみ野市は日本人配偶者やその人に呼び寄せられた子ども、日系2世3世の定住者が多いのも特徴です。

### ■生活保護状況から見た外国人

次に生活保護受給状況を調べました。2市1町の中ではふじみ野市に暮らす外国人は、人口の割合に対して生活保護受給者が多い事がわかります。外国人の自立支援の根本である日本語指導や職業指導が早急に求められていることを改めて実感しました。

	ふじみ野市	三芳町	富士見市	和光市
人口に対する外国人の割合	1・48%	1・28%	1・62%	2・21%
生活保護世帯に対する外国人生活保護世帯の割合	3・72%	3・57%	3・42%	1・60%
生活保護受給者に対する外国人生活保護受給者の割合	6・17%	3・95%	4・68%	2・40%



## 在日外国人と高齢化問題 若いころに日本に来て定住

藤林 美穂

以前に相談を受けたパキスタン人のAさんから先日電話が入りました。Aさんは8人きょうだいで、そのうち2人が日本在住です。相談は、パキスタンにいる父親を日本に呼び寄せたい、ということでした。

しかし、子どもの呼び寄せと違って、親の呼び寄せは難問です。入管では未成年の子を呼び寄せるための手続はありますが、親を呼ぶための方法についてははっきりした決まりはありません。母国で親の面倒をみる親族がいないこと、高齢かつ病弱で、日本で治療を受ける必要があることなどを強調して呼び寄せることになりませんが、なかなかうまくいかないのです。

.....というようなことをAさんには説明したのですが、Aさんの場合は母国にきょうだいや親類縁者がたくさんいるので、呼び寄せは難しそうです。

日本にいる外国人は、これまでは比較的若い人が多かった、と言えます。日本に外国人が大勢入国し始めたのは1980年代半ば。バブル経済真っ盛りの日本に来た外国人たち(在日の歴史が長い韓国・朝鮮籍の人と区別して、「ニューカマー」と呼ぶことが多い)はおおむね20代。若かった彼らも徐々に年をとり、ニューカマー第一世代が今だいたい50代にさしかかる頃で、それより年長の人はいないのです(ただし、先述した韓国・朝鮮籍の人たちは別)。

今、母国にいる老親の問題で頭を悩ます年齢層が出てきています。さらに、20年後にはこの人たち自身が高齢者になります。

外国人移民の高齢化にまつわる問題(母国の親・在日外国人自身の高齢化)は、外国人たちが一時の「出稼ぎ」ではなく、日本社会に定住したからこそ起きてくる問題です。出稼ぎであれば、若くて元気な働き手が数年がむしやりに働

き、お金を貯めて母国に帰る、ということで高齢化の問題は出てきません。

在日外国人が高齢化していく中で何が起きてくるのでしょうか。日本人の高齢化の問題と本質は同じですが、問題がより厳しいかたちで現れてくるのではないかとという心配があります。

現在中年期に入った人たちは日本語の読み書きができない人の割合が高く、仕事も肉体労働や工場労働に従事している人が多いので、早い段階で仕事ができなくなる可能性があります。働きすぎて、早くも40代で体をこわしている人も多いのです。また、年金に入っていない、国民健康保険のお金を払いきれない、というケースも珍しくありません。年をとって病気が多くなってくる時期に医療費の不安が出てくるかもしれません。介護の問題も出てきます。認知症などで判断力が衰えてきた場合にどうするのか、また、亡くなったときの葬儀、遺体の扱い(母国に送ると非常にお金がかかる)、さらにはお墓の問題もあります。

こうしたことを並べると「それは自己責任だ」と言う人がいますが、年をとったり病気になって困るのは日本人も外国人も同じです。社会は働ける人、元気で若い人だけでできているのではない、ということ、外国人も含めたかたちで考えていきたいと思います。

### ● 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

## いまは日本の生活を楽しんでいきます

吉井ジュリエッタ

日本人の男性と結婚したため18年前にフィリピンから日本へ来ました。夫と息子と私の三人で暮らしています。趣味はソーシャルダンス、写真、映画を見ることです。

最初日本に来たとき感じたことは、日本はきれいな国で、人も礼儀正しいと思いました。それでも、来日当初は日本の四季や食べ物、文化に適應するのに大変でした。日本語が堪能ではなかったので夫の家族との意思疎通もうまくいかず苦労しました。でも、今では日本の生活にも慣れ、日本語も不自由しなくなったので、今年は息子の学校のPTA役員になったり近所のボランティアワークに積極的に参加して日本の生活をエンジョイしています。またフィリピン人に日本語を教えることもしています。

とは言っても、息子が来年高校受験なので日本の高校受験のシステムについて教えてもらっているのですが、フィリピンと違って受験の仕方が複雑なので頭を抱えています。

友人から紹介されてふじみの国際交流センターのボランティア活動に一年前から関わるようになりました。私の主な仕事は、携帯電話通訳事業の通訳で、フィリピン語と英語の通訳をしています。それ以外にも通訳者として頼まれたときは、センターに来ます。センターで実施しているイベントに参加したり、時にはゲストスピーカーに駆り出されたりもしています。

毎週火曜日の午後、お当番としてセンターにいますので、フィリピンについて知りたい方、話したい方、私とお話ししませんか。待っています。

## 見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 ナナエ

〇月〇日

金木犀の香りに、秋が深まったことを気付かされた日、ふじみ野市総合振興計画後期基本計画策定のための市民意見交換会に出かけた。5年後の人口を12万人に見立てて『協働と融和・安心と愛着・環境と活力』をまちづくりの基本理念として考えられた原案に対して市民の意見を聴くために計画された会である。

14の政策に基づいて46の施策が発表された。政策9の「一人ひとりが輝きふれあえるまち」の施策24に「外国人市民が暮らしやすい環境づくりと国際交流を進めます」があった。5年後の目標が「生活相談の充実」と「日本での生活に必要な情報提供の充実」だけなのは物足りないが、「市民アンケートによる施策別まちづくりの重要度」に1つも外国人関係がなかったのを考えれば、市の基本計画にちょっとでも外国人に対する施策が盛り込まれたのは嬉しい。「今から、ここから」相田みつをさんの言葉が頭をよぎった。

〇月〇日

10月に入っても夏日が続き、20日を過ぎた頃から急に寒くなった。今朝は格別に寒い。長袖を3枚も着重ねて駅に向かう。リーさんの旦那さんが急死して、遺族年金の申請に年金事務所への同行を頼まれた。

川越駅の改札口で彼女を待つ。襟首の大きく空いた

服の人。厚手のコートを着た人。ブーツをはいた人。電車が付くたびに波のように大勢の人が押し出されてくる。皆きれいに着飾っている。「そういえばこの頃、新しい服を買っていないな。65歳になったのだから少しはおしゃれをしなければ」と急に感じた。いろいろ思いめぐらしてボーっと立っている私に、暗い顔のリリーさんが近付いて来た。

大混雑を予想していた年金事務所はがら空きですぐに順番が回ってきた。ところが勤務中に急死した人と違って、リリーさんの旦那さんはリストラされて6か月後に急死したので、おいそれとは遺族年金はもらえそうにない。仕事が原因で死亡したのかどうか証明できる書類がないといけならしい。

「在職中に社会保険で医者にかかっていたのを証明できるものを持ってきてください」と言われ、たった10分で話は終わってしまった。旦那さんのかかりつけの医者も、持病についても何も知らないリリーさんに代わって、元勤務先の健保組合に電話をしてみた。

「個人情報なので開示請求をしてほしい」と言われた。そこでも何種類かの書類が必要らしい。

「日本は難しいね。長すぎて退屈しちゃった」とリリーさんが言う。退屈でなくて面倒くさくなったのだと思いながらも『会社から開示請求の手紙が届いたら教えて。また相談に乗るからね』と約束して別れた。

## 「さいたま防災ひろば」や埼玉大学留学生寮で「外国人緊急カード」を配布

ふじみの国際交流センターの3人のインターン生の取り組みと、埼玉大・留学生会館のボランティア学生によるカード配布についての報告をお届けします。

### ■防災ひろばへの出展

11月17日(土)に武蔵浦和で行われた「さいたま防災ひろば2012」に参加しました。外国人のことを多くの人に知ってもらいたいという思いから、埼玉に住む外国人の数をまとめた模造紙の展示、民族衣装体験、やさしいにほんごの展示、外国人緊急カードの配布を行いました。多くの方に展示物を見て頂き、身近なところにたくさん外国人がいるということを実感してもらえたのではないかと思います。また、防災カード配布時には「とても良いカードね。」「家族の分もください。」など、お年寄りの方から若いお母さんまで様々な方に興味を持ってもらえました。今回の私たちの活動が、外国人のことに少しでも関心を持ってもらえるきっかけになればと思います。本田美晴(教養学部3年)

私たちは防災ひろばに参加し色々な体験をしました。多くの子どもの民族衣装を着てもらい国々のことも知ってもらいました。このように子どもに外国について学習をさせることは、大人になっても外国人とのふれあいが自然になるのではないかと思います。そして、ギャル語をやさしい日本語に変えてみる体験もしていただき、多くの日本人に「外国人にはやさしい日本語を使ったほうがいい」と知ってもらいました。例えば、ばくろ=盗むなどがあり「なるほど」「俺もうちちょっとやさしくしゃべらないと」などの意識の変化も感じられました。今回のイベントで、日本人は外国人とともに生きていることをよく知ってもらいとても貴重な時間でした。チェ ギュヒョン(教養学部1年)

日本は高齢社会で、高齢者に対する支援や保障などが重要視されている。同時に国際化もしている。それなのに、まだ支援も充分ではないし、身近に外国人がいることすら知らない人や、興味すら持ってくれない人も大勢いる。「防災ひろば」では改めてそれを実感した。私たちのブースは子ども向けのショーや分かりやすい防災講座などのブースよりも人気は低かったし、一目見ただけで通り過ぎていく人もいた。でも私

たちがそのようなブースを出したことで、大人達には「身近に外国人がいる」という事を少しでも思い出してもらえたと思う。また、子ども達にとっても外国人に親しみを感じるきっかけとなってほしい。楯 舞子(教養学部3年)

インターンシップの授業で、センターで現在作成中の「7か国語防災ガイドブック」の作成などに携わった学生たちが、「外国人緊急カード」を配布しようと「防災ひろば」に出展(来場者約600人)。センターでの経験をもとに準備し、当日は今にも雨が降りそうな冷え込んだ天候でしたが、約350枚のカードを配布しました。

インターンシップで得た知識や気づきなどを手がかりに、初めてのこと・新しいことに挑戦した学生たち。さまざまな方たちと出会いながら、それぞれの目で社会と自分自身とを見つめているようです。浜本由里子(NPOインターン授業担当・埼玉大学)

### ■留学生寮でのカード配布

私は留学生寮に留学生と一緒に住み彼らのサポートをするボランティアをしています。寮では半年に一度防災訓練をしており、参加者に「緊急カード」と記入例を配りました。50人程に配ったのですが、それでは少なすぎるという事で必要な枚数を自由に取れるように寮の事務室の前に置くことにしました。これからは留学生担当部署に置かせてもらうよう依頼して、埼玉大学に来た留学生全員に配ってもらえるようお願いいたします。一人でも多くの留学生やその家族に配りたいと思います。また、学生ではなくても地域の外国人の方々にも持ってもらいたいと思いました。菅原 佑介(経済学部3年)





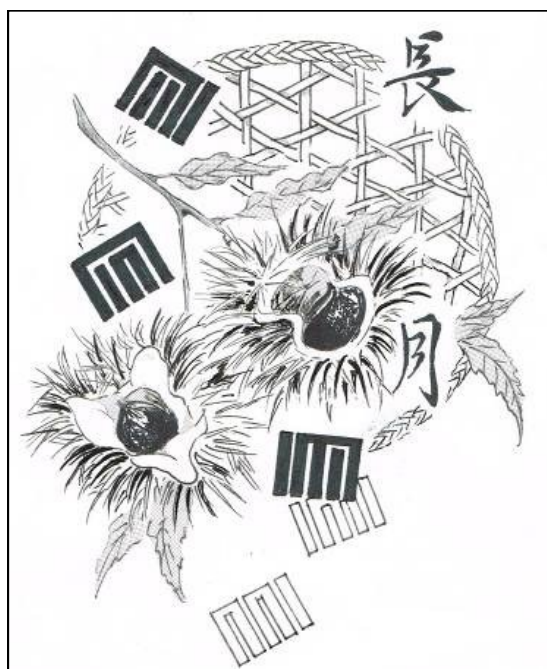
## 「インフォメーションふじみの」イラスト執筆者 林 由紀子さん の紹介

『インフォメーションふじみの』の表紙のイラストを描き始めて1年半がたちました。

日本の陰暦による月名と、その月毎の伝統的な行事、四季折々の自然の美しい風物(花鳥風月)をテーマに描いています。

縁あって日本に住むことになった外国人の皆さんの暮らしに役立つこの情報誌、ジャパネスクな表紙イラストも楽しんで頂ければ幸いです。

私は毎週木曜日の日本語教室でもボランティアをしています。一緒に日本語を学びましょう。



### 活動報告

2012/10/1携帯通訳者会議 9.23スタッフ会議 13.14.27外国人向け暮らしのガイドDVD撮影 23情報誌編集会議 11.18パソコン教室 中国語教室 英語教室 日本語教室 国際子どもクラブ  
11/5携帯通訳者会議 11富士見市国際フォーラム 18.DVボランティア講座1回目 25緑の青空市 13スタッフ会議 10理事会 27情報誌編集会議 8.22パソコン教室 中国語教室 英語教室 日本語教室 国際子どもクラブ

### 日本の文化と外国の文化を学ぼう！受講者募集！

～在日外国人支援ボランティア養成講座～

日本で暮らしている外国の方と、互いの文化を学びながら交流をします。

内容：①日本のふろしきにまつわるお話しと包み方 講師：ふろしき研究会 鈴岡真知子さん

②ネパールのサモサとスープを飲みながら、外国の文化のお話しと交流 講師：長野マルセルさん

日時：12月18日(火)10時～13時 場所：大井総合福祉センター 多目的ホール(4階)

定員：25名 \*お手持ちのふろしき(70cm)をお持ちください。

お申し込みは ☎049-266-1981 ふじみ野市社会福祉協議会 大井支所

☎049-256-4290 ふじみの国際交流センター

## センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

### ●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

### ●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511  
口座名：ふじみの国際交流センター

## ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

### ●2011年4月～(50音順・敬称略)

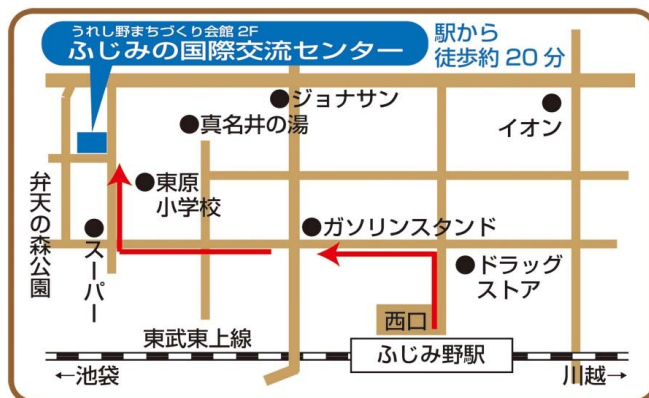
イオン(株)大井店、国際ソロプチミスト埼玉、立麻医院、東入間地区遊技業防犯協力会、阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、荒田光男、石井ナナエ、市川孝治、岩田仁、上島直美、太田原裕、大西文行、葛西敦子、加藤久美子、金子忠弘、神田順子、木場ひろみ、駒形一夫、権田貴久子、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻肇子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、野沢弘子、萩原千代子、長谷川正江、浜本由里子、百瀬紀子、森和也、森田信子、山畑博子

## 外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら  
センターをご紹介ください。



## サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、 ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、 ポルトガル語、ロシア語、 タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ 申請、履歴書 A4判1頁、 40字・30行 1枚1,000円
	その他の文書	A4判1頁、 40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、 ロシア語、タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

## 特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291

## ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。